

お知らせ

■ ■ 設備使用料・手数料の改定 ■ ■

令和3年4月から、使用料・手数料を改定しました。主な改定は、以下のとおりです。

《設備使用料/新設》

・真円度測定機	1,770円/時間
・大型恒温恒湿機	1,130円/時間
・接触角測定機	1,220円/時間
・GPC測定装置	1,880円/時間
・走査型プローブ顕微鏡	2,190円/時間
・ナノ粒子解析システム	2,250円/時間
・微粒子拡散解析装置	2,320円/時間

《設備使用料/機器更新による改定》

・蛍光X線分析装置	1,790円/時間
-----------	-----------

《手数料/新設》

・物理試験 接触角	3,930円/件
-----------	----------

《手数料/機器更新による改定》

・分析 定性分析 金属成分(蛍光X線装置使用)	3,870円/件
・検査測定 真円度測定	2,080円/件
・検査測定 蛍光X線スペクトル測定	4,300円/件

※ 詳細につきましては、
当センターホームページ
をご覧ください。



■ ■ 導入機器説明会 ■ ■

本年度に当センターへ導入した5つの機器について、説明会を開催します。

日 時:	令和3年4月22日(木)13:15(予定)
会 場:	工業技術センター 大会議室
機 器:	1)接触角測定機 2)微粒子拡散解析装置 3)走査型プローブ顕微鏡 4)ナノ粒子解析システム 5)GPC測定装置

内 容:機器の紹介とデモンストレーションなど

定 員:50名程度

参加費:無料

申込方法:工業技術センターホームページより申込

〈お問合せ・申込先〉

工業技術センター

TEL:0995-43-5111

FAX:0995-64-2111

TOPICS

■ ■ ものづくりIoT研究会を開催 ■ ■

3月4日に、当センターで令和2年度第3回ものづくりIoT研究会を開催し、会場に33名、オンラインに71名の参加がありました。

研究会では、IoT及びAIを導入した県内企業の事例紹介、専門家による講演、鹿児島大学の事例発表等を行いました。県内企業の事例紹介は、ファーマーズサポート(株)、(株)丸俊、白金酒造(株)が発表し、IoTを導入したことによる原料ロスの削減、コストダウン、人件費削減について紹介されました。



研究会の様子

■ ■ 工場排水管理技術講習会を開催 ■ ■

3月12日に、当センターで工場排水管理技術講習会を開催しました。県内中小企業の排水処理担当者等を対象とし、会場に34名、オンラインに75名の参加がありました。

講演内容は、以下のとおりでした。

- ・水質汚濁防止法の排水基準及び特定施設等について

県環境保全課 中島洋介氏

- ・当社の事業と排水処理

九州化工(株) 上村悠人氏

- ・温故知新

～公開特許公報を活用した排水処理管理技術の構築～
鹿児島県知財総合支援窓口 新村孝善氏



講習会の様子

■ ■ 表面改質技術研究会を開催 ■ ■

3月23日に、当センターにて第3回表面改質技術研究会を開催しました。オンライン形式による講演が行われ、7名の参加者が聴講しました。

講演内容は、以下のとおりでした。

- ・超短パルスレーザーによるマイクロ微細加工の御紹介

(株)リプス・ワークス 照井正人氏

最新の表面微細加工に関する技術解説が行われるとともに、質疑応答の際には活発な議論が展開され、非常に充実した研究会となりました。



研究会の様子

■ ■ 産業技術連携推進会議 令和2年度感謝状受賞 ■ ■

3月3日に、オンライン開催された第61回産業技術連携推進会議において、生産技術部の岩本竜一研究専門員と栗毛野裕太研究員が感謝状を受賞しました。

この感謝状は、産業技術連携で特に優れた連携活動を行った機関に与えられるもので、両研究員が他県の公設試と連携し、「三次元測定機取り扱い者のための教科書活動」、「材料加工技術の高度化と技術革新のためのWG活動」に取り組んだことが評価されました。



岩本研究専門員(左)、栗毛野研究員(右)

TOPICS

九州・沖縄産業技術オープンデーで最優秀賞受賞

10月8日に、九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデーがオンライン開催され、多くの方が参加されました。

この中で行われた、企業と公設試等との共同研究による成果発表会で、当センターは1件の口頭発表と2件のポスター発表を行いました。

企業との共同研究では、地域資源部の中原 亨研究員が、(株)未来シティ研究所の瀧澤 宏代表取締役とともに、「トラック荷台用竹床材の国産化に向けた取り組み」について口頭発表し、「最優秀賞」を受賞しました。鹿児島県は豊富な竹の蓄積量を誇る地域です。竹林の整備および切り出された竹材の有効活用のために、従来トラック用床材として使用されてきた中国産竹集成材の国産化に取り組みました。試作品の強度試験や接着性能試験により性能確認を行い、製造条件へのフィードバックを繰り返すことで、メーカーの要求性能を満たす製品を開発しています。

ポスター発表では、企画支援部の中村 寿一主任研究員が「木材無垢板の収縮を妨げない成形治具を用いた3次曲面成形技術」、食品・化学部の東 みなみ主任研究員が「絹製品へのCNFの利用に関する研究」について発表し、それぞれ「優秀ポスター賞」を受賞しました。



瀧澤代表取締役



中原研究員



トラック荷台に使われた竹集成材

<表紙の説明>

Depth(深さ)カメラとは、距離情報を得ることが可能なカメラを指します。雑多な背景が映り込む環境でも、距離を指定することで目的の物体のみ抽出することが可能です。最近では携帯電話などにも組み込まれており、顔認証などに利用されています。



鹿工技ニュース No.133

2021年4月号(年4回発行)

<https://www.kagoshima-it.go.jp>

【発行元/問い合わせ先】

鹿児島県工業技術センター 鹿工技ニュース等編集委員会

〒899-5105 鹿児島県霧島市隼人町小田1445-1

TEL 0995-43-5111 FAX 0995-64-2111 (禁無断転載)

